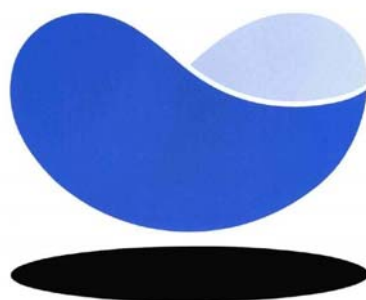


第4期 宮前区区民会議

(平成24年4月1日～平成26年3月31日)

提案書



平成25年12月12日区長提出資料

まちづくりは、人づくり

～宮前区の公園環境の活用と世代交流を通じた人づくり～

第3期までの宮前区区民会議の審議からは、身近な地域でお互いを見守る「ご近所サークル」、子どもがのびのびと自由に遊ぶ「冒険遊び場」、区の歴史資源を楽しみながら学ぶ「みやまえカルタ」、起伏が多い地形を活かした健康づくり「坂道ウォーキング」、転入者向けの情報誌「ぐるっとみやまえ」など、様々な住みよいまちの実現や地域課題解決に資する取組が提案され、実践されてきました。

これらの経緯を受けながら第4期の審議を進める中で、改めてポイントとなってきたのは、「地域の担い手をいかに育てていくか」ということでした。

スポーツの推進や花・緑・川などの豊かな環境の活用などをテーマに審議を始めた「環境を活かした人づくり部会」では、特に身近な公園をもっと活用し、いかにより多くの区民の参加や連携の場とするかに議論が収束してきました。

町内会・自治会・子ども会の活性化、子育て親の地域意識醸成、学校と地域が連携した子どもの教育支援、定年後の生きがい探しなどをテーマに審議を始めた「心を育てる地域と世代部会」では、いかに子どもたちを豊かに育てるか、区民が互いに助け合う環境をつくっていくか、伝統文化や歴史を未来に伝えていくかを検討する中で、これらの課題を「心を育む」という言葉で包括的に捉え、そのために何より大切な「世代間交流」を進める取組に議論が収束してきました。

両部会共通して、繰り返し議論された課題が「新たな人材の発掘」と「参加へのきっかけづくり」です。地域に関わるきっかけや経験がない区民の中に、まだまだ素晴らしい知識や技術、可能性や思いをもった区民がいるはずだとの認識が強く共有されています。

どんなに良い提案であっても、それを地域で実践する区民がいなければ、生きたものにはなりません。更に実践を継続させるためには、多様な世代や新たな人材をその輪に加え、共有し、引き継いでいくことが必要です。様々な市民活動団体から代表が参加している区民会議ですが、既存の団体や区民に留まらず、新たな区民を巻き込んでいくことが、今後の発展、継続のために、何より重要となっていくと考えます。

第4期区民会議の提案が生きたものとなるかどうかは、これからです。任期が終わっても、それぞれの活動団体や地域の現場で、行政や企業と連携を図りながら、より多くの区民の方々と手を取り合って、誰もが暮らしたいと思える地域の実現にこれからも努めてまいりたいと思います。

第4期宮前区区民会議

委員長 直本 享子

【審議テーマ】

環境を活かして人を育てる

- (1) スポーツの推進
- (2) 花・緑・川など身近な環境
- (3) 区民主体のお祭り

・背景

■スポーツ・健康づくりの推進強化

- ・宮前スポーツセンター開館（2006年）
- ・総合型地域スポーツクラブ「菅生スポーツコミュニティクラブ」発足（2009年）
- ・区スポーツ推進担当の設置（2010年）
- ・公園体操の推進（第1期提案）。40団体以上が活動中
- ・坂道ウォーキングの推進（第3期提案）による冊子の発行。「フロントウンさぎぬま」での教室も人気

■豊かな自然環境

- ・3本の河川や区内205の公園・緑地。
- ・自然関係の地域資源をテーマとした市民活動も盛ん
- ・市民アンケート（2011年）の生活環境満足度で「公園や緑の豊かさ」が1位
- ・交通網の影響等により生活圏が拡散し、区内自然資源が広く区民に認知・活用されていない

■次世代の担い手不足の懸念

- ・地域の伝統行事や祭事に担い手として関わる次世代の確保・育成
- ・メンバーの固定化・高齢化等が見られる市民活動
- ・町内会・自治会の加入率の低下（平成18年度から約4%減少）

【目指す方向性】

区民に身近な環境である、「公園」に絞り込む。

公園をコミュニティの核として活用することで、地域で活躍する「人づくり」をする。

・課題整理

1)公園管理・活用に区民が参加しやすくなる仕掛けの不足

- ・「参加したら楽しそう」と思わせる情報発信がなされていないのではないか。
- ・公園の花壇づくりなどに興味があっても、誰が管理しているかわかりにくいいため、なかなか参加するきっかけが無い。
- ・報奨金や草刈機の貸し出しなど、行政が実施している支援メニューが周知されるだけでも区民参加のきっかけになりそうだ。

2)新たに公園管理団体を発足してもらう難しさ

- ・区内205公園のうち市民による管理組織のない公園が64公園。
- ・公園の清掃や維持管理、利用調整などが区民によって担われていることが、一般区民にあまり知られていないのではないかと。
- ・町内会等の運営に積極的に関わっている人以外へは市からの管理組織設置依頼の情報が届いていないことも考えられる。

3)既存の公園管理団体の負担感や後継者問題

- ・後継者問題発生の原因の一つに、既存の団体に途中から入る難しさがあるのでは。
- ・うまく代替わりしている公園や、地域を巻き込みながら清掃をする、広報紙を配るなどの工夫をしている公園もあるので、そのノウハウを共有していけると良い。

4)公園の持つコミュニティ機能の更なる活性化

- ・「街区公園等の管理運営に関する要綱」において、「コミュニティの核としての公園利活用」が示されているが、日常管理で手一杯な面もあり、そこまでの運用がなされていない。
- ・公園体操やゲートボール、自主保育など、様々な活動の場として活用されている公園もあるが、コミュニティの核として活用するにはこれら活動同士の横のつながりがあることが望ましい。
- ・周辺住民の高齢化が進み、こどもがいなくなったことで使われていない小さな公園もある。活用方法を考えないともったいない。

【目標】

公園を活用することで…

- ・地域で活躍する「人」を育てよう
- ・地域住民のコミュニティ活動を活性化しよう
- ・緑化を推進しよう

【課題解決の提案】

提案A 公園の管理・活用活性化に向けた環境整備をする

提案B 公園を身近なコミュニティ活性化の場として活用する

提案C 公園の維持・管理に多くの区民が関わる仕掛けをつくる

・具体的な取組

提案A	①宮前区マイパーク・ネット（仮）の設置	様々な公園関係団体のネットワークを構築。公園に関する意識統一の場として位置づける。
	②公園に関する情報の発信・共有	広報紙やホームページなどを通じた情報発信・共有により、公園利用者の拡大、コミュニティ活性化、既存取組の拡充などを狙う。
	③公園のコミュニケーション機能強化支援	テント等活動用品の貸出、公園活用人材育成講座の開催、世代間交流促進など。
提案B	④樹木・草花名プレートの設置・活用	宮前区マイパーク・ネット（仮）を推進していく中で、実現に向けて取り組む。
	⑤冒険遊び場の推進	
	⑥公園体操の拡大開催	
	⑦ネイチャーゲームの普及	
提案C	⑧地域が主体となった公園管理の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会の協力を得て、花壇を通じた公園管理を促進 ・管理組織未設置の公園について、参加者・協力者募集の案内掲示や、市政だより等を活用した周知・広報。 ・公園愛護会を公園管理運営協議会に移行促進 ・草刈機など貸出可能な用具について周知

環境を活かした人づくり部会からの提案

1. 審議テーマ

部会の審議テーマ：環境を活かして人を育てる

- (1) スポーツの推進
- (2) 花・緑・川など身近な環境
- (3) 区民主体のお祭り

2. 審議テーマの背景

■ スポーツ・健康づくりの推進強化

- ・ 2006年に宮前スポーツセンターがオープンし、2009年に区内初となる地域主体の総合型地域スポーツクラブ「菅生スポーツコミュニティクラブ」が立ち上げられ、2010年からは区役所にスポーツ推進担当のポストが設けられ、多様なスポーツ関連事業を実施しているなど、近年、区内でのスポーツを取り巻く環境には様々な変化が見られます。
- ・ 急速に進む高齢化の中で、これまで区民会議から提言がなされた公園体操の推進（第1期）、坂道ウォーキングの推進（第3期）などの取組も一定の進捗が見られています。公園体操は当初の数団体から40を超えるまでに発展。坂道ウォーキングもガイドの冊子が発行され、「フロントウンさぎぬま」で開催される教室へも着実に参加者が見られることなどから、健康づくりに関する区民意識の高まりが窺えます。

■ 豊かな自然環境

- ・ 宮前区は多摩丘陵上に位置し、起伏に富んだ自然豊かな地域です。平瀬川、矢上川、有馬川などの河川、生田緑地や菅生緑地、東高根森林公園等豊かな環境資源に恵まれており、計205の公園・緑地は区民に身近な憩いの場として整備されています。これらの資源を場やテーマとした市民活動も盛んです。
- ・ 「かわさき市民アンケート（2011年10月）」においても、生活環境満足度の1位に「公園や緑の豊かさ（宮前区70.0%…全市平均63.1%）」が挙げられるなど豊かな自然は区民も広く認識するところです。
- ・ バス路線の影響等により、区内田園都市線3駅の他、溝の口・新百合ヶ丘・向ヶ丘遊園・たまプラーザ・武蔵小杉等に生活圏が拡散し、区内の豊かな自然の財産が広く区民に認知・活用されていない現状もあります。

■ 次世代の担い手不足の懸念

- ・ 伝統行事や祭事が各地域で開催されていますが、これらに参加するだけでなく、担い手として積極的に関与し、地域で活躍する次世代の人材の確保、育成が求められています。
- ・ 区内に数多くある様々な市民活動において、次世代の担い手の確保・育成がうまくゆかず、メンバーが固定化・高齢化する例が見られます。
- ・ 町内会・自治会は、加入率が平成18年度から約4%減少しており、今後の弱体化も懸念されています。

3. 課題整理

部会審議の中で重要視されてきたのが、宮前区の特徴である自然や近年活性化しているスポーツ事情といった地域の環境を活かした、「地域で活躍する人づくり」でした。その「場」として、区民誰も身近にあるであろう「公園」に議論を絞りこみ、審議を進めることとしました。

「公園」について共有された「解決すべき地域課題」と、主な意見は以下のとおりです。

課題：公園管理・活用に区民が参加しやすくなる仕掛けの不足

- ・ 「参加したら楽しそう」と思わせる情報発信がなされていないのではないか。
- ・ 公園の花壇づくりなどに興味があっても、誰が管理しているかわかりにくいいため、なかなか参加するきっかけが無い。
- ・ 道路公園センターに問い合わせれば、管理の方法や既存管理団体の情報等も得られるが、そこまでする人は少ないのではないかな。
- ・ 報奨金や草刈機の貸し出しなど、行政が実施している支援メニューが周知されるだけでも区民参加のきっかけになりそうだ。

課題：新たに公園管理団体を発足してもらう難しさ

- ・ 区内 205 公園のうち、市民による管理組織のない公園が 64 公園（約 31%）存在（平成 25 年 10 月現在）する。
- ・ 公園の清掃や維持管理、利用調整などが区民によって担われていることが、一般区民にあまり知られていないのではないかな。
- ・ 町内会等の運営に積極的に関わっている人以外へは市からの管理組織設置依頼の情報が届いていないことも考えられる。
- ・ 市が地域の町内会・自治会にお願いをするという従来のやり方だけでは、新たな公園管理団体の立ち上げは難しい状況に来ているのではないかな。町内会・自治会が運営に負担感等を感じているケースもあるようだ。
- ・ 公園体操や外遊びで公園を利用する区民、花壇づくりが好きな区民等に積極的に呼びかけることにより、新たな担い手となる人材の発掘ができるのではないかな。
- ・ 公園によってはゴミが散乱するなど荒廃しているところも見られる。

課題：既存の公園管理団体の負担感や後継者問題

- ・ 今後、既存の管理団体では高齢化や参加人数の減少など、活動の停滞や団体解散の危機も考えられる
- ・ 活発な活動を継続するには資金の安定的な確保が必要。各種助成金の申請などが負担になっている。区との連携の中から継続的な資金の確保を検討できないかな。
- ・ 後継者問題の原因として既存の団体に途中から入る難しさがある。新た

なメンバーを受け入れてくれるのか、といった不安感などからアプローチしにくい現状も。

- ・ うまく代替わりしている公園や、地域を巻き込みながら清掃をする、広報紙を配るなどの工夫をしている公園もあるので、そのノウハウを共有していけると良い。

課題：公園の持つコミュニティ機能の更なる活性化

- ・ 第2期区民会議で子どもの健全育成と公園の活用などを図る取組として、子ども達が自己責任の元で自由に遊ぶ「冒険遊び場」の取組推進が提案された。現在、区内4箇所の公園で地域住民により、「冒険遊び場」が展開されている。
- ・ 「街区公園等の管理運営に関する要綱」において、「コミュニティの核としての公園利活用」が示されているが、日常管理で手一杯な面もあり、そこまでの運用がなされていない。
- ・ 公園体操やゲートボール、自主保育など、様々な活動の場として活用されている公園もあるが、コミュニティの核として活用するにはこれら活動同士の横のつながりがあることが望ましい。
- ・ 公園間のネットワークとして管理団体同士で連合会を形成し、広報誌を発行している五所塚町内会の例もある。
- ・ 周辺住民の高齢化が進み、子供がいなくなったことで使われていない小さな公園もある。活用方法を考えないともったいない。

4. 目指す方向性と目標

部会では「コミュニティの核としての公園利活用」が達成されることで、地域コミュニティが活性化し、人づくりに結びつくと考えました。そのためには市民への意識づけ、公園管理・活用団体への各種ノウハウの共有、団体間ネットワークの推進などが求められます。

それらを具体化するために取り組みを検討する上で、「目指す方向性」と「目標」を以下のように定めました。

■ 目指す方向性

公園をコミュニティの核として活用することで、地域で活躍する「人づくり」をする

■ 目標

公園を活用することで

- ・ 地域で活躍する「人」を育てよう
- ・ 地域住民のコミュニティ活動を活性化しよう
- ・ 緑化を推進しよう

環境を活かした人づくり部会からの提案

スポーツの推進、身近な緑の保全、公園花壇づくりなど、地域の環境を活かしながらそれを通じて地域で活躍する「人づくり」をする

提案

- A 公園の管理・活用活性化に向けた環境整備をする
- B 公園を身近なコミュニティ活性化の場として活用する
- C 公園の維持・管理に多くの区民が関わる仕掛けをつくる

▲取り組むべき課題

- ◇公園管理・活用に区民が参加しやすくなる仕掛けの不足
- ◇新たに公園管理団体を発足してもらう難しさ
- ◇既存の公園管理団体の負担感や後継者問題
- ◇公園の持つコミュニティ機能のさらなる活性化
- ◇公園をコミュニティの核とする上での管理団体や利用団体間のネットワーク不足
- ◇公園管理・活用に関して役だつノウハウを共有していく

★目標

- 公園を活用して・・・
- ◎地域で活躍する「人」を育てよう
- ◎地域住民のコミュニティを活性化しよう
- ◎緑化を推進しよう

【具体的な取組のイメージ】

提案	#	内容	詳細・備考等
環境整備	①	宮前区マイパーク・ネット（仮）の設置	様々な公園関係団体のネットワークを構築。公園に関する意識統一の場として位置づける。
	②	公園に関する情報の発信・共有	広報紙やホームページなどを通じた情報発信・共有により、公園利用者の拡大、コミュニティ活性化、既存取組の拡充などを狙う。
	③	公園のコミュニケーション機能強化支援	テント等活動用品の貸出、公園活用人材育成講座の開催、世代間交流促進など。
活用	④	樹木・草花名プレートの設置・活用	宮前区マイパーク・ネット（仮）を推進していく中で、実現に向けて取り組む。
	⑤	冒険遊び場の推進	④⇒モデル公園で実施し、経験を積んだ人が他の公園へ広げる。
	⑥	公園体操の拡大開催 区内42箇所(把握分のみ)	⑤⇒冒険遊び場キャラバン部隊を組織し、モデル公園で実施する ⑥⇒「公園体操オリンピック」を開催する中で、各開催場所での開催回数を増やし、長期的に開催場所を増やしていく。
	⑦	ネイチャーゲームの普及	⑦⇒ネイチャーゲームにより身近な公園を活用し、自然体験機会を通して世代間交流をはかる。
維持・管理	⑧	地域が主体となった公園管理の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会の協力を得て、花壇を通じた公園管理を促進 ・管理組織未設置の公園について、参加者・協力者募集の案内掲示や、市政だより等を活用した周知・広報。 ・公園愛護会を公園管理運営協議会に移行促進 ・草刈機など貸出可能な用具について周知

提案 A : 公園の管理・活用活性化に向けた環境整備をする

■取組①：宮前区マイパーク・ネット（仮）の設置

■目的・公園関係団体間の交流を促進することで、公園に関する意識統一、活用のノウハウの共有、公園活用の活性化等を促進する。

■提案内容

1. 宮前区マイパーク・ネット（仮）の構築

- ・公園を管理・活用する団体やそれらのグループを所管する行政等からなる、宮前区マイパーク・ネット（仮）を構築する。
- ・各種情報の共有の他、公園に関する情報の発信・共有（後述、**取組②**）、公園のコミュニケーション機能強化支援（後述、**取組③**）の具体的な内容について検討する。
- ・交流を通して、団体間の連携による地域間交流、世代間交流を推進する。

2. 宮前区マイパーク・ネット推進会議（仮）の開催

- ・宮前区マイパーク・ネット（仮）を推進するため、推進会議を定期的で開催する。
- ・まちづくり協議会、(財)川崎市公園緑地協会、グリーンフォーラム 21 みやまえなど、他の中間支援組織等と連携・協力することで、視野を広げた宮前区のまちづくりへとつなげる。

■提案に係る現状・検討経過等

1) 第 9 回部会 H25.9.3 宮前区役所

- ・公園は活用されているが、公園管理団体や活用主体がバラバラに動いており、横のネットワークが無いことがコミュニティ拠点として不十分である、という点について議論となった。

2) 第 10 回部会 H25.10.1 宮前区役所

- ・道路公園センター協働推進担当課長に關係者として出席を依頼し、公園を取り巻く現場レベルでの課題認識について部会内で共有をした。
- ・ネットワークの必要性については部会内で合意を得た。設置に当たっての留意点として、「効果的に機能するためには運用面での工夫が必要」「ネットワークの構築と併せて、既存の公園管理運営協議会の機能強化も必要」といった意見が出た。

■今後の課題

1) 宮前区マイパーク・ネット（仮）のあり方について検討を深める。

- ・公園関係団体の現状についての把握。
- ・推進会議の開催に当たっては、メンバーの人選や事務局の体制等が課題である。
- ・特に、公園管理運営協議会は、公園管理運営協議会事務連絡会を平成 24 年 3 月と平成 25 年 11 月に開催しているが連合体を形成しているわけではないので、各利用団体等のネットワーク化も含めた動きも検討する必要がある。

取組①

提案A：公園の管理・活用活性化に向けた環境整備をする

■取組②：公園に関する情報の発信・共有

■目的・情報発信・共有を通して、公園利用者の利便性に供し、公園利用者の拡大、コミュニティの活性化、既存取組みの拡充を図る。

■提案内容

公園の維持・管理に関する既存の制度や支援メニューの周知、公園利用に関するマナー啓発、管理ボランティアの参加者募集など、各種情報の発信・共有を行う。

情報の発信に当たっては、広報紙、ホームページ、インターネット上のコミュニケーションツール（ツイッターやフェイスブック 他）等を活用することで、公園管理者・公園利用者・あまり地域の活動に参加していない市民等対象に応じて、効果的な手法を取り入れる。

●実施案

- 1) 広報紙の発行
- 2) ホームページの開設等インターネット上の情報発信

●掲載情報のイメージ

- 1) 公園に関する各種団体の活動の紹介・参加の呼びかけ等
- 2) 公園で開催される各種イベントや活動の情報（イベントカレンダー）
- 3) 公園の使い方やルール
- 4) 公園管理のノウハウ提供・助言等
- 5) 宮前区マイパーク・ネット（仮）の設置目的・活動紹介等

■提案に係る現状・検討経過等

取組①と併せて議論を行ってきた。

- ・宮前区の公園情報を発信するホームページとしては、区のポータルサイト「みやまえぽーたろう」内にコンテンツがある。
- ・公園体操の情報は、宮前区運動普及推進員連絡協議会「ヘルスパートナー宮前」に掲載されている等、個々の活動レベルではホームページでの情報発信がなされている。
- ・行政が情報発信をするよりも、市民側の目線で広報した方が効果的な場合もある。
- ・宮前区マイパーク・ネット（仮）との連動により効果を高めることが期待できる。

■今後の課題

- ・広報紙の発行、ホームページの作成・運営等に市民側の視点を盛り込むには、実際に担当する担い手の確保が必要である。

提案A：公園の管理・活用活性化に向けた環境整備をする

■取組③：公園のコミュニケーション機能強化支援

■目的・公園のコミュニケーション機能を活性化することにより、より多くの人に公園を利用してもらう。

■提案内容

公園でコミュニケーション活動を行う際の資機材の貸し出し、人材の育成・支援を行う。人材を育成することにより、公園の維持・管理組織の立ち上げへと結びつける。また、団体間の連携を図ることで、多様な世代、多様な地域の人たちが公園に集い、コミュニティの核としての公園へと繋げる。

●具体的な実施案

- 1) コミュニケーション・ツールの貸し出し
 - ・公園を使ってイベント等を開催する際に必要となる資機材を貸し出す。
 - 例 ①防災用品：発電機、テント 等
 - ②冒険遊び場用品：ロープ、滑車、段ボール、スコップ 等
 - ③祭り用品：餅つき用杵・臼 等
 - ④その他：紙芝居 等
- 2) 公園活用ノウハウの周知による人材育成
 - ・公園を使って各種催しを開催する際に必要となる技術等を習得するための、養成講座を開催する。
 - ・また、担い手となる人材が地域にいない公園には、指導員を派遣する。
 - ・各種催しを企画する際に相談に乗る相談員を配置する。
- 3) 団体間連携による世代間・地域間交流の促進
 - ・宮前区マイパーク・ネット（仮）での交流や、広報紙、ホームページでの情報交換を通して、公園を利用する団体同士が連携し横につながることで、世代や地域を超えた催しを開催する。

■提案に係る現状・検討経過等

取組①と併せて議論を行ってきた。

- ・既に公園管理運営協議会等管理組織が立ち上がっている公園に対しては、申請があり次第、道路公園センターが一時的に草刈機等資機材の貸し出しを行っている。
- ・冒険遊び場が区内4箇所、公園体操が区内42箇所以上で実施されている。
- ・宮前区マイパーク・ネット（仮）との連動により効果を高めることが期待できる。

■今後の課題

- ・宮前区マイパーク・ネット（仮）との連携方法や初期の目的と齟齬の無い支援メニューにするための振り返りを行うなど、適時適切な進捗管理が求められる。

提案B：公園を身近なコミュニティ活性化の場として活用する

■取組④：樹木・草花名プレートの設置・活用

■目的・樹木や草花への愛着から公園への愛着へと結びつけることにより、公園をより大切に、有効に活用する。

■提案内容

地域の手で公園内の樹木や草花に手作りの名前プレートを設置することにより、樹木や草花に愛着を持ってもらう。

●実施に向けたスキーム案

- 1) モデル公園の選定
 - ・宮前区内の7中学校区ごとにモデルとなる公園を選定し、先行して取り組む。
- 2) プレートの作成・設置
 - ・公園管理運営協議会のメンバーが中心となり、プレートを作成する。
 - ・作成に当たっては、道路公園センターの職員等を招き、樹木・草花名の講習、作り方の講習等を開催する。
 - ・設置に当たっては、子ども会等を通して、近隣の子どもの参加を図る。
 - ・設置の際には、公園管理運営協議会のメンバーが中心となり、事前に草刈、枝おろし等をして、子どもたちでも設置しやすいように周辺を整理する。
- 3) 設置後の維持・管理
 - ・プレート設置後は、公園管理運営協議会のメンバーが日常的な公園管理をする際に、破損や落下に目を配り、適宜補修・再設置をする。
- 4) 設置後の活用
 - ・プレート設置後に、公園内の樹木一覧表や樹木マップを作成する。
 - ・取組⑦と連携し、樹木・草花プレートを使用したネイチャーゲームの開催など、設置後の活用を図る。

■提案に係る現状・検討経過等

- 1) 第6回部会 H25.4.8 宮前区役所
 - ・公園は地域住民のためのものであり、同時に財産であることの意識を肌で感じていただき、コミュニティの場として有効活用するためには地域ぐるみでの維持・管理が必要である。そのための手法の一つとして、樹木・草花名プレートの設置が委員から提案された。
- 2) 第9回部会 H25.9.3 宮前区役所 ～ 第11回部会 H25.10.21 宮前区役所
 - ・プレート設置に関する具体的な手法等について検討し、「設置に当たっては小学校等に協力を求めることで、子どもたちが公園に愛着を持つ」等の意見が出された。

■今後の課題

- ・宮前区マイパーク・ネット（仮）を推進する中で実現に向けて取り組む。
- ・モデル公園の選定とプレート作成費用の確保が課題である。

提案B：公園を身近なコミュニティ活性化の場として活用する

■取組⑤：冒険遊び場の推進

■目的・冒険遊び場を通して子育て世代や子ども達が公園に対して愛着を持ち、地域参加機会の創出や持続可能な公園の活用へとつなげる。

■提案内容

子どもたちが冒険遊び場に参加することで、親同士の連携を深める。

宮前区内にモデル公園を選定し、定期的にキャラバン部隊が冒険遊び場を開催することにより、最終的には、モデル公園に冒険遊び場を定着し、キャラバン部隊の支援が無くとも開催できるよう人材を育成する。

●実施に向けたスキーム案

1) キャラバン部隊の結成

- ・各地域で担い手として活動したいが、単独で運営するには人数が少ないといった方たちも集めて育成する。
- ・4つの公園の有志によりキャラバン部隊を組織し、宮前区内のモデル公園で冒険遊び場の開催を指導・支援する。
- ・キャラバン部隊による冒険遊び場は、あらかじめスケジュール化し、事前に広報することで、より多くの参加者を募る。

2) モデル公園での人材育成

- ・キャラバン部隊による冒険遊び場を試行する中で、各モデル公園が担い手を育成し、最終的にはキャラバン部隊の支援が無くとも独自開催ができるようにする。

■提案に係る現状・検討経過等

1) 第2期区民会議での提案とその進捗状況

- ・「公園を活用した次世代育成」、「コミュニティの活性化」の2つの目的のもと、冒険遊び場の開催が提案なされた。
- ・平成22年冒険遊び場検討委員会設立。23年4月に「冒険遊び場活動支援要綱」を策定、同年9月に「冒険遊び場支援委員会」設立。
- ・現在、要綱に沿って3団体が組織され、4か所で開催されている。また、シンポジウムや区民祭での出張冒険遊び場も開催されている。

2) 第9回部会 H25.9.3 宮前区役所 ～ 第11回部会 H25.10.21 宮前区役所

- ・冒険遊び場の推進の実施スキーム案について意見交換。

■今後の課題

- ・宮前区マイパーク・ネット（仮）を推進する中で実現に向けて取り組む。
- ・ロープ、ハンモック等固定的に使用する用具の購入は、費用援助が必要となる。
- ・その他用具の貸し出し等については、宮前区マイパーク・ネット（仮）を推進する中で対応する。

提案B：公園を身近なコミュニティ活性化の場として活用する

■取組⑥：公園体操の拡大開催

■目的・公園体操の開催回数を増やすことにより、より多くの区民が公園を利用し、公園を地域のコミュニティの場として機能させる。

■提案内容

「公園体操オリンピック」等のイベントを通して、公園体操の開催回数、参加人数の拡大を図る。

●実施に向けたスキーム案

1) 「公園体操オリンピック」の開催

- ・公園体操の推進期間を指定し、期間内の公園体操の開催回数、参加人数等を競う、「公園体操オリンピック」を開催する。
- ・宮前区内の公園が競い合うことで、開催回数の拡大、参加人数の増大を推進する。
- ・優秀な成績をおさめた公園に対しては、「最年長参加者」「開催回数」「参加人数」などの表彰を行うことにより、イベント参加への動機づけを図る。

2) 横の連携による世話役の確保

- ・イベントを開催することで、公園体操を実施している公園が身近にない人たちが遠方から参加し、自分たちの近くの公園で公園体操を実施する契機となる。
- ・新たに公園体操を実施する公園が、既に公園体操を実施している公園と連携することで、世話役の交流が生まれ、互いに補てんし合う関係が生まれる。

■提案に係る現状・検討経過等

1) 公園体操の実施状況

- ・現在、区で把握している分だけでも42か所の公園で開催している。
- ・公園によって、月に1回しか開催していない公園から、ほぼ毎日開催している公園まで、開催回数はことなる。
- ・内容も、ストレッチ、ラジオ体操、太極拳など様々である。
- ・ホームページ「ヘルスパートナーみやまえ」で、公園体操の開催場所、開催日時、開催内容等の情報を提供している。

2) 第6回部会 H25.4.8 宮前区役所

- ・「介護の必要のない社会を目指して、健康な身体づくり・体力づくりが要求される」という課題解決の方策として、委員から提案された。

3) 第9回部会 H25.9.3 宮前区役所 ～ 第11回部会 H25.10.21 宮前区役所

- ・公園体操の拡大開催について実施スキーム案の意見交換。

■今後の課題

- ・宮前区マイパーク・ネット（仮）を推進する中で実現に向けて取り組む。
- ・イベント開催に当たっては、公園体操を実施している各団体・グループ間の横の連携が取れる仕組みを作る必要がある。

提案B：公園を身近なコミュニティ活性化の場として活用する

■取組⑦：ネイチャーゲーム※の普及

■目的・ネイチャーゲームを開催することで、自然と触れ合う機会を創出するとともに、多様な世代が交流する機会を提供する。

■提案内容

子どもから高齢者まで、誰でも参加可能なネイチャーゲームを開催する。五感を使って自然と触れ合うことで、自然を大切にすることを育む。

●具体的なスキーム案

1) 開催手法

- ・他の団体が主催するイベントプログラムの1つとして開催する
- ・ネイチャーゲームの会が中心となり企画し、地域の協力を得て参加者を募るなど、地域の特性に合わせてさまざまな手法が考えられる。

2) 担い手

- ・かわさきネイチャーゲームの会メンバーに、企画・指導を受ける。
- ・宮前区内に、かわさきネイチャーゲームの会には所属していないが個人でネイチャーゲーム指導員として活動している人もいるので、将来的にはその人たちを地域に引っ張り込んでいきたい。
- ・町内会・子ども会・青少年指導員・こども文化センター運営協議会などの協力を得る。また、公園管理運営協議会のメンバーとともに、企画・運営に当たる。

3) 開催場所

- ・宮前区内の各地の公園で開催する。とくに、公園管理運営協議会の設置されている公園で先行的に実施する。
- ・開催候補：菅生緑地、鷺沼公園、宮崎第4公園
東高根森林公園、野川ふれあいの森 等

■提案に係る現状・検討経過等

- ・心を育てる地域と世代部会から議論を引き継ぎ、検討を進めた。
- ・かわさきネイチャーゲームの会は川崎市市民・こども局市民スポーツ室所管の川崎市レクリエーション連盟に加入している。

■今後の課題

- ・宮前区マイパーク・ネット（仮）を推進する中で実現に向けて取り組む。
- ・参加者のケガへの対応として、保険料を徴取し開催する場合がある。
- ・他団体から依頼される場合は、講師料として交通費程度を受け取る場合もある。

※ ネイチャーゲーム

見る・聴く・触るなどの感覚を使い、自然に関する色々なゲームを通して、楽しみながら自然の不思議や仕組みを体験する活動。

提案C：公園の維持・管理に多くの区民が関わる仕掛けをつくる

■取組⑧：地域が主体となった公園管理の促進

- 目的・区民主体の公園維持管理を推進し、区民の地域参加の機会を増やす。
- ・活用されていない公園の活性化へつなげる。

■提案内容

公有地の植栽活動に花苗の支援をしている区まちづくり協議会の「花と緑のまちづくり事業」と連携する。新たに発足した団体に特化した花苗支援を行うことで、管理組織未設置公園に対して花壇づくりをきっかけとした公園参加を促す取組を行い、それを契機として市民による公園管理の促進へとつなげていく。

●具体的な取組

- 1) まちづくり協議会との連携による花壇活動を通じた公園管理の促進
- 2) 市政だより、回覧等を活用して公園管理の参加者・協力者の募集
- 3) 花壇設置や花苗支援、報奨金等、既存支援メニューの周知広報

■提案に係る現状・検討経過等

- 1) 公園管理運営協議会・愛護会設置状況
 - ・区内全 205 公園のうち、公園管理運営協議会が設置されている公園は 72 箇所、公園愛護会が設置されている公園は 69 箇所となっており、管理組織が未設置の公園は 64 箇所、約 3 割である。
- 2) これまでの取組
 - ・第 2 期宮前区区民会議で「公園・緑地管理運営協議会の活性化のための支援」として提案がなされていた。
 - ・第 2 期提案とは連動はしていないが、平成 24 年 3 月と平成 25 年 11 月に区道路公園センターが公園管理運営協議会事務連絡会を開催した。
- 3) 宮前区まちづくり協議会「花とみどりのまちづくり事業」（平成 23 年度～）
 - ①対象：区内の公有地にある花壇を管理している緑化活動団体
平成 25 年度実績 29 団体 約 7,000 株
 - ②提供内容：花苗
 - ③条件：「花とみどりの支援説明会」への参加
花植え後の花壇写真を添付した報告書の提出 など

■今後の課題

- ・市民による公園管理へ結びつける花苗支援の具体的な手法については、まちづくり協議会花とみどりの委員会の協力を得る。
- ・まちづくり協議会・行政内関係部署の取組強化がきっかけとなり、地域による公園管理が活性していくことが望ましい。

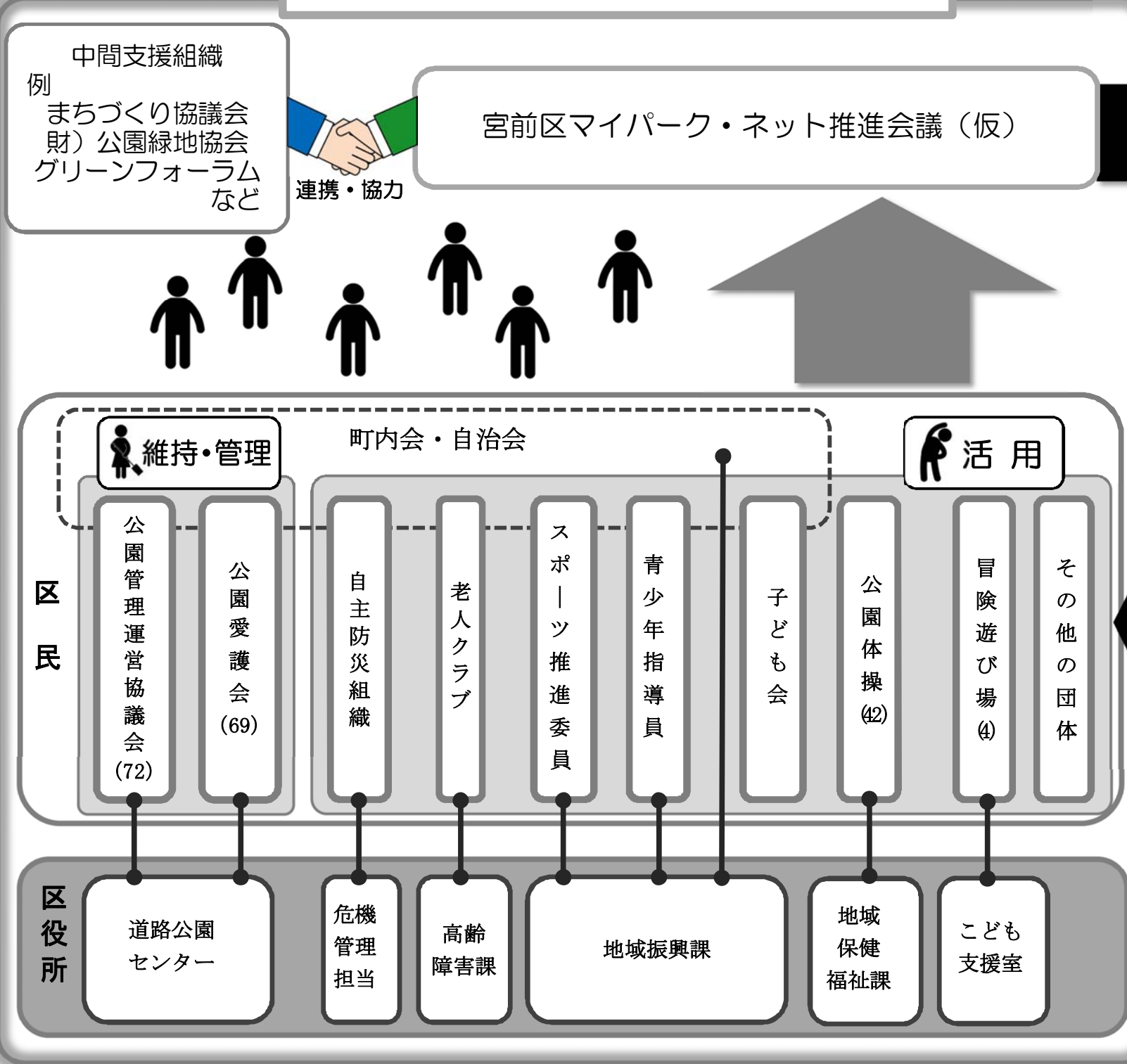
ねらい・目的

- ◎公園を身近なコミュニティ活性化の場として活用する
- ◎公園の維持・管理に多くの区民が関わる仕掛けをつくる

地域参加の人づくり、公園を核としたコミュニティ形成

宮前区マイパーク・ネット（仮）イメージ

①宮前区マイパーク・ネット（仮）の設置



②公園に関する情報の発信・共有

- 広報紙の発行
- OHPの開設

発信する情報の案

- 公園に関する団体情報
 - ・公園管理運営協議会・愛護会
 - ・公園体操
 - ・冒険遊び場
 - ・自主防災組織 等
- 公園で開催されるイベント情報（イベントカレンダー）
 - ・冒険遊び場・公園体操
 - ・防災訓練 ・盆踊り等地域の行事
 - ・花壇の草刈り、花苗の植え替え 等
- 「宮前区マイ・パークネット推進会議」(仮)に関する情報
 - ・役割、会議開催予定、議事録 等
- 公園の使い方Q&A
 - ・ルール、公園マナーの共有

③公園活用（コミュニケーション）の強化支援

- コミュニケーション・ツールの貸し出し
例：発電機、テント
冒険遊び用機材（ロープ、滑車、段ボール、かまど用ブロック、スコップ 等）
餅つき用臼・杵、餅つき機
紙芝居 等
- コミュニケーション技術の養成
例：養成講座の開催
指導員の派遣
イベント相談員の配置 等
- 団体間の連携による世代間交流の促進

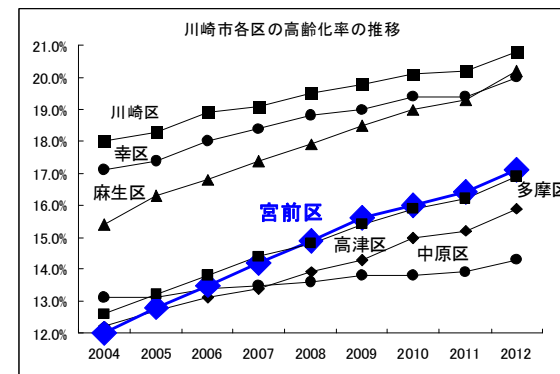
【審議テーマ】

- 地域間・世代間の交流を深める
- (1) 町内会・自治会・子ども会の活性化
 - (2) 子育て親の地域意識醸成
 - (3) 子どもの教育の支援
 - (4) 定年後の生きがい探し
 - (5) 孤独死・孤立死問題

・背景

■地域とつながりの薄い区民の増加

- ・川崎市内で子どもの人口が最も多く人口比率も高い宮前区
- ・核家族化や共働き世帯増加等の家庭環境変化、不審者対策等の社会環境変化による子どもと大人の交流機会の減少
- ・居住期間が短い世帯や単身世帯の増加
- ・都心等への生活圏の分散によるご近所づきあいや地域参加、他の世代との交流機会等の少ない区民の増加
- ・急速に進行する高齢化



■活発で多様な市民活動

- ・宮前区内では市民活動が活発に行われており、地域が主体となった高齢者の見守り活動や多数の子育てサークルの活動などが展開されている
- ・区内4箇所にある市民活動支援コーナーへの登録団体数は約270団体
- ・メンバーの高齢化・固定化等による活動の停滞・弱体化も懸念される
- ・活動団体や活動内容の認知度不足

【目指す方向性】

多様な人材・世代が地域(小学校区程度の徒歩圏内)で、交流し、連携する場を創出することで、健全育成や文化・体験の共有と伝承につなげ、区民の心を育む

※心を育む=地域の伝統文化や多様な価値観に触れることで、他人を思いやる心や礼儀、自立心、郷土愛などを育む

・課題整理

1)人とのつながりや地域への帰属意識の希薄化

- ・現役世代は仕事、子どもは学校や習い事で忙しく、宮前区の豊かな自然を体験したり、地域活動に参加したりする時間や機会に乏しい区民が多い。
- ・世代間交流により、多様な価値観や体験に触れる機会が少なくなっていることが、子どもの豊かな成長の妨げや自己本位な大人の増加につながっているのではないかと。
- ・郷土史などが世代間で継承されておらず、散逸のおそれがあるとともに、地域への帰属意識や愛着の希薄化につながっているのではないかと。

2)市民活動の認知度向上や地域の潜在的な人材の参加促進

- ・区内には素晴らしい市民活動がたくさんあり、広報等も尽力されているが、それでもなかなか知られていないケースがある。
- ・地域に興味があっても参加のきっかけがない区民が多いのではないかと。
- ・様々な分野で実績や経験、知識・技術を持つ区民が区内にはたくさんいる。そうした人材を活かし、協力をあおぎながら、地域の子どもに継承していきたい。

3)ボランティアのコーディネートやネットワークの不足

- ・社会福祉協議会、市民館、こども文化センターなどでは、それぞれ人材や活動団体の登録・連絡体系などがあるが、個人情報に関連もあり、整理や共有化・発信が困難であり、横断的な活用はできていない。
- ・各取組がバラバラの印象がある。全体を俯瞰して連携や人材のコーディネートを進める視点・機能が求められる。
- ・学校が地域に開かれた場となり、地域の様々な世代や人材が活躍、活動することで、学校が地域の拠点となることが理想である。また、学校側も地域に参加し、相互の交流関係を築いていけるとよい。

【目標】

- ・多世代が対話できる場を地域で展開する
- ・各世代の文化や体験、記録を世代間で共有する
- ・世代間交流に資する市民活動を支援する

【課題解決の提案】

- 提案A** 世代間交流に取り組む諸団体へのサポートの実施
- 提案B** 既存のイベントでの世代間交流のしかけの企画と実践
- 提案C** 世代間の対話につながる新たなプログラムの企画と実践
- 提案D** 活動の記録、区誕生40周年・市制100周年に向けたアーカイブ

・具体的な取組

提案A	①世代間交流に資する市民活動へのサポート	広報支援、地域ボランティア募集の支援など、区や団体との調整結果を踏まえてサポートする。第1弾として「風の泉」への支援を行う。
	②世代間交流のキャンペーン展開	既存の世代間交流に資する活動をまとめ、キャンペーンとして展開。周知・広報・ネットワーク化の一助とする。
提案C	③世代間で交流する対話の場を企画	特定分野に知識・見識や技術・経験を持つ成人を核として、子ども達や親子が、体験・対話を共有する場を企画・実施する。
提案D	④アーカイブ事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・取組③の企画を実施し、記録を作成。区民が閲覧できる形で提供する。 ・区の情報をまとめるアーカイブ事業を実施し、手法として世代間交流の内容を盛りこんでいく。

・申し送り・経過観察事項

提案A	⑤学校支援センターの機能強化	人材拡充・活用促進の課題はあるが、当面は行政側の取組を見守る。
提案B	⑥「チャレボラ」交流会の開催等	チャレボラの現場を見学。主催である市社会福祉協議会に区民会議での検討経過を伝えるに留める。
提案C	⑦ボランティアコーディネーターの育成	必要性は議論されたが、市民館等で開催している既存の人材育成関連の講座の開催経過を見守るに留める。

心を育てる地域と世代部会からの提案

1. 審議テーマ

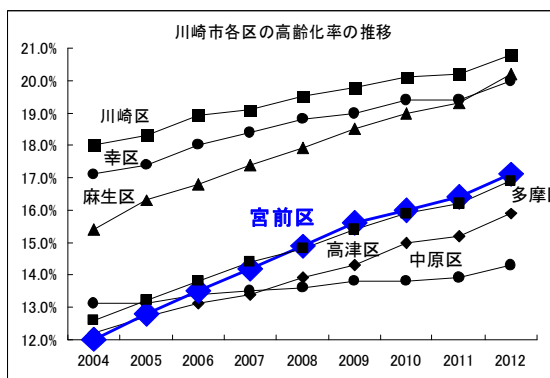
部会の審議テーマ：**地域間・世代間の交流を深める**

- (1) 町内会・自治会・子ども会の活性化
- (2) 子育て親の地域意識醸成
- (3) 子どもの教育の支援
- (4) 定年後の生きがい探し
- (5) 孤独死・孤立死問題

2. 審議テーマの背景

■ 地域とつながりの薄い区民の増加

- ・ 人口の推移から見る宮前区は、18歳未満の子どもの数が川崎市7区のうち最も多く、人口比率も高くなっています（平成25年10月1日現在川崎市年齢別人口）。一方で、居住期間が短い世帯や単身世帯の増加も見られます。
- ・ 子どもの置かれている状況として、核家族化や共働き世帯の増加といった家庭環境の変化や、不審者対策といった社会環境の変化により地域の大人との交流機会の減少が見られます。
- ・ 都心へのアクセスが優れた住宅地として戦後に開発されてきた地域も多いことから、東京都や横浜市などを通勤・通学先や日常生活圏とする区民も多く、ご近所づきあいや地域参加、他の世代との交流機会等の少ない区民が増えてきています。
- ・ 2004年までは川崎市7区中最も高齢化率が低い区（12%以下）でしたが、近年高齢化が急速に進行。2012年には高齢化率17%を超えています。
- ・ これらのことから地域と関わりの薄い子どもや、子育てに不安を抱え孤立しがちな親世代、ひきこもりがちな高齢者（孤独死・孤立死等の問題にもつながる）などを地域で支えていくことが必要です。



■ 活発で多様な市民活動

- ・ 宮前区内では様々な分野での市民活動が活発に行われており、地域が主体となった高齢者の見守り活動や、多数の子育てサークルの活動などが展開されています。
- ・ 区役所、向丘出張所、有馬・野川生涯学習支援施設（アリーノ）、カップパーク鷺沼内（フォンテーヌさぎぬま1階）の4箇所に設置された市民活

動支援コーナーへの登録団体は約 270 団体（平成 25 年 10 月時点）となっており、数多くの地域活動がなされていることがわかります。

- ・ 一方で、団体によっては高齢化や後継者不足による活動の停滞・低迷、認知度が低いことによる参加者拡大機会の損失などもあり、それらに対しては区まちづくり協議会など既存の中間支援団体による支援に加え、必要に応じた活動のサポートが求められています。

3. 課題整理

上記審議テーマの背景を踏まえ、部会で共有された地域課題に関する主な意見は以下のとおりです。

課題：人とのつながりや地域への帰属意識の希薄化

- ・ 現役世代は仕事、子どもは学校や習い事で忙しく、宮前区の豊かな自然を体験したり、地域活動に参加したりする時間や機会に乏しい区民が多い。
- ・ 親子で体験や感動を共有する機会も少なくなっている。
- ・ 世代間交流により、多様な価値観や体験に触れる機会が少なくなっていることが、子どもの豊かな成長の妨げや自己本位な大人の増加につながっているのではないかと。
- ・ 郷土史などが世代間で継承されておらず、散逸のおそれがあるとともに、地域への帰属意識や愛着の希薄化につながっているのではないかと。

課題：市民活動の認知度向上や地域の潜在的人材の参加促進

- ・ 区内には素晴らしい市民活動がたくさんあり、広報等も尽力されているが、それでもなかなか知られていないケースがある。
- ・ 担い手が高齢化・固定化等している傾向が様々な活動に見られる。
- ・ 地域に興味があっても参加のきっかけがない区民が多いのではないかと。
- ・ 「潜在的な地域人材」は区内にまだ多く眠っているように思う。
- ・ 様々な分野で実績や経験、知識・技術を持つ区民が区内にはたくさんいる。そうした人材を活かし、協力をあおぎながら、地域の子どもの継承していきたい。

課題：ボランティアのコーディネートやネットワークの不足

(1) 市民活動等の連携に関する課題

- ・ 社会福祉協議会、市民館、こども文化センターなどでは、それぞれ人材や活動団体の登録・連絡体系などがあるが、個人情報との関連もあり、整理や共有化・発信が困難であり、横断的な活用はできていない。
- ・ 各取組がバラバラの印象がある。全体を俯瞰して連携や人材のコーディネートを進める視点・機能が求められる。
- ・ 既存の市民活動団体に関わる人たちが、他のテーマや活動についてはほとんど知らなかったり、関心が低かったりすることもある。

(2) 学校と地域の連携に関する課題

- ・ 学校が地域に開かれた場となり、地域の様々な世代や人材が活躍、活動することで、学校が地域の拠点となることが理想である。また、学校側も地域に参加し、相互の交流関係を築いていけるとよい。
- ・ 教員の負担・経費・管理安全責任などの問題が、学校と地域の連携の壁になっていることがある。
- ・ 学校と地域の連携事例が個人的・限定的なつながりによっていることが多く、担任の交代や地域側の世代交代などに対応できないことがある。
- ・ 区学校支援センターの、登録ボランティアの少なさ、ボランティアニーズと登録者が希望する活動内容とのミスマッチ、広報不足など。

4. 目指す方向性と目標

①子ども達の健全育成、区民の郷土愛の醸成のために、区民の世代間交流や地域参加の機会を増やす取組

②地域での支えあい、コミュニティの充実のために、既存の区内の地域活動・市民活動の充実と連携、次世代の担い手の発掘や育成に資する取組

上記の2点が、課題を解決するために必要です。

それらを具体化するために取組を検討する上で、「目指す方向性」と「目標」を以下のように決めました。

■ 目指す方向性

**多様な人材・世代が地域（小学校区程度の徒歩圏内）で、
交流し、連携する場を創出することで、
健全育成や文化・体験の共有と伝承につなげ、区民の心を育む**

※心を育む＝地域の伝統文化や多様な価値観に触れることで、他人を思いやる心や礼儀、自立心、郷土愛などを育む

■ 目標

- ・ 多世代が対話できる場を地域で展開する。
- ・ 各世代の文化や体験、記録を世代間で共有する。
- ・ 世代間交流に資する市民活動を支援する。

心を育てる地域と世代部会からの提案

多様な人材・世代が、地域で交流し、連携する場を創出することで、健全育成や文化・体験の共有と伝承につなげ、区民の心を育てる。

提案

- A：世代間交流に取り組む諸団体へのサポートの実施
- B：既存のイベントでの世代間交流のしかけの企画と実践
- C：世代間の対話につながる新たなプログラムの企画と実践
- D：活動の記録、区誕生 40 周年・市制 100 周年に向けたアーカイブ

▲取り組むべき課題

- ◇人とのつながりや地域への帰属意識の希薄化
- ◇市民活動の認知度向上や地域の潜在的人材の参加促進
- ◇地域での人材とニーズのコーディネート機能や連携ネットワークの不在

★目標

- ◎多世代が対話できる場を地域で展開する
- ◎各世代の文化や体験、記録を世代間で共有する
- ◎世代間交流に資する市民活動を支援する。

【具体的な取組】

提案	#	内容	詳細・備考等
A	①	世代間交流に資する市民活動へのサポート	●広報支援、地域ボランティア募集の支援など、区や団体との調整結果を踏まえてサポートする。第1弾として「風の泉」への支援を行う。
	②	世代間交流のキャンペーン展開	●既存の世代間交流に資する活動をまとめ、キャンペーンとして展開し、周知・広報・ネットワーク化の一助とする。
C	③	世代間で交流する対話の場を企画	●特定分野に知識・見識や技術・経験を持つ成人を核として、子ども達や親子が、体験・対話を共有する場を企画・実施する。
D	④	アーカイブ事業の実施	●取組③の企画を実施し、記録を作成。区民が閲覧できる形で提供する。 ●区の情報をもとめるアーカイブ事業を実施し、手法として世代間交流の内容を盛り込んでいく。

【申し送り・経過観察事項】

提案	#	内容	詳細・備考等
A	⑤	学校支援センターの機能強化	●人材拡充・活用促進の課題はあるが、当面は行政側の取組を見守る。
B	⑥	「チャレボラ」交流会の開催等	●チャレボラの現場を見学。主催である市社会福祉協議会に区民会議での検討経過を伝えるに留める。
C	⑦	ボランティアコーディネーターの育成	●必要性は議論されたが、市民館等で開催している既存の人材育成関連の講座の開催経過を見守るに留める。

提案A：世代間交流に取り組む諸団体へのサポートの実施

■取組①：世代間交流に資する市民活動へのサポート

■目的：・世代間交流に資する区内の市民活動の推進・普及の強化、継続性に対して支援する

■提案内容

世代間交流に資する市民活動団体へのサポートを、区や区民会議関係団体により実施する。対象となる団体と支援の内容や理念、期間等、確認・調整しながら、必要に応じて協働の協定を締結するなど対応を検討する。

第1弾として、「風の泉」※に対して区と協働し、以下に取り組む。

●1 広報支援

市政だより・回覧等各種広報媒体で取組の理念や内容の周知を推進する。

●2 ボランティア募集支援

ボランティア募集・地域内の他団体との連携（例：地域教育会議、高齢者施設、福祉施設等）に際する橋渡しなど働きかけの支援を行う。

●3 その他の支援

「風の泉」をきっかけとして地域での九九暗唱サポート体制の自立や立ち上げにつながる支援等を必要に応じて実施する。

■提案に係る現状・検討経過等

1) 第5回部会 H25.3.8

- ・「風の泉」が開催したシンポジウムへ部会メンバーが出席した際に活動内容を知り、学校での世代間交流について審議をしていた部会へ付議した。
- ・「風の泉」は開発したプログラムやノウハウを普及していく点が他の団体と異なる。活動が継続すれば区全体で持続的に世代間交流が活発となり、地域コミュニティの活性とともに学校・地域連携の促進や子どもの学力アップまでが見込まれる。

2) 団体関係者ヒアリング1 H25.7.17 宮前市民館

活動状況や理念、経緯を関係者に伺い、サポート対象として相応しいことを確認。

- ・学校と地域の連携推進を理念とした活動で、現在区内4小学校で展開
- ・児童の九九暗唱を聞く、簡単で、地域の誰もが参加しやすいボランティア活動
- ・参加ボランティアと子ども達の心の交流や、成長を見守る場となっている

3) 活動現場見学・体験 H25.7.23 有馬小学校

- 2・3年児童を対象とした夏休み期間中の活動現場を訪問、見学・体験。
- ・ボランティア体験を通じ、参加のしやすさや子ども達との交流、効果等を実感
- ・先輩中学生のボランティア参加、ふり返り活動等による多世代の交流を確認



4) 団体関係者ヒアリング2 H25.9.26 第10回部会 宮前区役所

団体関係者を部会に招き、改めて活動の状況や支援ニーズを伺った。

- ・過去に「風の泉」が入った学校で、保護者らによる自主運営などの事例が見られ始めた。また、地域拠点（アリーノ）で実施したことから、学校外でも活動の基盤をつくる展開が考えられた。
- ・学校と地域拠点での展開で、より多様な参加児童や運営ボランティアの確保、他団体との連携、地域に根ざした運営基盤等の確保などを目指している。
- ・保護者以外の地域ボランティアの募集、声かけに苦労している。
- ・地域の高齢者福祉施設等との連携により、子どもと高齢者がともに、支え合い生きる力を獲得する可能性がある。
- ・中学校区ごとに存在する地域教育会議との連携もはかりたいが課題も多い。



■今後の課題・次期以降の区民会議への申し送り事項等

1) 他の活動支援対象の検討・実施

- ・「風の泉」以外の世代間交流に資する市民活動の発掘
- ・支援ニーズの掘り起こしと支援の実施

2) 進行管理・評価の方法

主旨目的の遂行と継続、チェック機能（実施効果の確認・評価等）の確保

- ・「区民会議の目的＝参加と協働による地域社会の課題の解決」に沿っているか
- ・地域の世代間交流に資する内容となっているか
- ・活動団体のニーズに答え、且つその主体性を損なわない内容となっているかなど

※ 風の泉

市民館自主企画学級が発端となって組織された市民活動団体。小学校低学年で学ぶ九九暗唱は四則計算の基礎であり、そこでのツマヅキが学力的にも精神的にも将来に与える悪影響が大きいことが予想されることから、小学生の九九暗唱定着の支援活動プログラムを作成し、区内各地で実施しながら普及活動を行っている。

小学生が九九を覚えられているかを聴くだけなので、特別な知識や技能が無くても地域の大人や中学生でもボランティアとして参加できる。この学習支援活動を通し、子どもだけでなく、教師や保護者・ボランティアみんなにとって得るものが大きく、単なる学習支援に留まらない学校と地域の連携や世代間交流を目的としている。自分たちが活動するわけではなく、九九暗唱支援のプログラムを普及し、ノウハウを地域に定着させ、地域主体で担えるサイクルづくりを目標としている。

提案A：世代間交流に取り組む諸団体へのサポートの実施

■取組②：世代間交流を推進するキャンペーンの展開

■目的・区民の世代間交流を通じて「心を育む」意識の醸成、認知・参加意識を高める。

・区内の世代間交流に資する活動を盛りたて、活動の活性化へつなげる

■提案内容

「世代間交流で心を育てる（＝郷土愛の醸成や文化の伝承、子どもの健全育成など）」といった理念を区内で普及・推進し、区民の意識を高めるためのキャンペーン活動を展開する。

具体的な手法・展開例として、以下の様な案が挙げられた。

●主旨

- ・地域の様々な人と出会うことで心やコミュニティが豊かになることを伝える
- ・地域の世代間交流に貢献している既存の活動にスポットを当て、勇気づける
- ・世代間交流を通じた新たな体験・出会い・活動連携のきっかけづくりを行う

●キャンペーンとしての一体感を演出する方法（象徴）

・キャッチフレーズ案

案：つながろう 知ろう・語ろう みやまえ区

案：輪になって 知ろう・語ろう みやまえ区

案：話（わ）と輪（わ）で和（わ）になるみやまえ区

※主旨がわかりやすいもの、5・7・5などリズムが良いものが良い。

・ロゴマーク・キャラクター案

案：区誕生30周年キャラクターである「宮前兄妹」に
年下の赤ちゃんやお父さん・お母さん、おじいちゃん・おばあちゃんなど家族を加えて、世代間交流の演出を行うと共に、活用の機会を増やす。



案：多世代が手を結ぶイメージのロゴマークを作成する

※ストーリー性を持たせ、多世代が楽しめるように演出したい。

⇒ロゴ等のバッジを作成して、活動する団体や個人に広くつけてもらい、モチベーションアップや、普及・啓発へとつなげる。

●展開

案：キャッチフレーズ・ロゴの掲出 ⇒ 既存活動への付加

案：冠事業としての広報展開など（例：区誕生30周年事業）

⇒市政だより区版で特集記事を組むなどして紹介する。（各戸配布）

⇒区のホームページ、その他各メディアを通じて広報する。

案：既存のイベント等から「世代間交流活動」の登録・認定を行い、紹介する。

案：認定・紹介された活動の体験を推進する。

⇒スタンプカードなどを作成し、イベント参加ごとにスタンプを収集。達成度に応じて、インセンティブを与える。

⇒活動を互いに見学・体験するイベントなどを企画する。

⇒区民祭など多くの区民が集まり、毎年開催されているイベントを核にする。

■提案に係る現状・検討経過等

1) 第9回部会 キャンペーン提案 H25.8.20 宮前区役所

世代間交流の企画案を検討している中で、新たな担い手の確保の難しさと共に、既存の活動にも地域の世代間交流に貢献しているものが相当数あることが指摘された。

これらにスポットを当てるとともに、区全体で世代間交流の価値を再認識し、機運を盛り上げていくためのキャンペーンの案が浮上した。

2) 第10回部会 キャンペーン提案の検討 H25.9.26 宮前区役所

「区誕生 30 周年」「音楽のまち・かわさき」などの展開事例を踏まえて、キャッチフレーズ、展開方法などの具体案の検討を進めた。(検討結果は前述のとおり)

■今後の課題・次期以降の区民会議への申し送り事項等

1) キャンペーン内容の具体化

- ・部会で検討した案を基にしたキャンペーンの内容・展開方法の検討・確定する。
- ・個人や活動団体にとってのキャンペーン参加へのインセンティブや、興味をもって参加してもらうきっかけづくり・働きかけの設定が要となる。
- ・活動団体が積極的に互いの活動を自慢しあうような場・雰囲気を形成したい。

2) キャンペーンの展開

- ・より多くの区民に知ってもらい、参加してもらえる形で展開する。
- ・限定された期間でなく、ある程度継続性が確保される形が望ましい。

提案C：世代間の対話につながる新たなプログラムの企画と実践

■取組③ 世代間で交流する対話の場を企画

- 目的・地域で多世代が共に地域の文化や資源等の体験を共有し、語り合う機会を創出することで、文化の伝承、子どもの健全育成、郷土愛の醸成等につなげる。
 - ・区民の世代間交流を通じて「心を育む」意識の醸成、認知・参加意識を高める。

■提案内容

特定分野に知識・見識や技術・経験を持つ成人や、宮前区の資源や魅力の伝承・保全・創出・PR等を主旨として活動している団体や区民を核として、子どもをメインターゲットとした多世代が体験・対話を共有する場を、以下に留意しながら企画・実施する。

- ・人生の先輩から子ども達へ、経験や知識、価値観や宮前区の資源等を伝える。
- ・参加する多世代が、双方向で体験や意見を共有しあうプロセスを重視する。聴講型ばかりではなく、参加・交流型の要素を必ず企画に盛り込む。
- ・参加者に身近に感じてもらえるようテーマの取り上げ方、伝え方を演出する。

①対話するテーマの案

- ・郷土史…郷土史を研究したり、サークル活動を行ったりしている区民を核に、地域の歴史資源や逸話・伝承等を取り上げる。例：まちの歴史や東部62部隊の歴史
- ・役に立つ体験談…昔からの生活の知恵や、戦争・事故事件・自然災害等の体験談などを年配者から語った後、教訓や対策を多世代で話し合い、共有する場とする。

②実施方法の案

- ・「課外授業 ようこそ先輩」宮前区版…NHKの同名番組をヒントに、区出身の著名人が母校を訪ね、特別授業を通じて、自分の経験や知識を子ども達に伝えると共に、交流活動を行う。
- ・世代間交流コミュニケーションツールの作成…学校や地域等で起こる様々な課題をテーマとしたコミュニケーションツールを作成、多世代で体験する。

③場の案

身近な場所・歩いていける場所が望ましい。

- ・学校…安全面や運営面などいくつかクリアすべき課題があるが、世代間交流の場としてふさわしく、児童の成長を地域で見守る形にもっていける可能性がある。
- ・わくわくプラザ…利用者が限定されているが、児童が集まる場として期待される。
- ・こども文化センター…運営協議会に地域の様々な活動団体が参加し、連携の場となっている。
- ・その他、企画内容によって、身近な施設や公園なども考えられる。

④担い手の案

- ・区民会議委員出身団体
- ・テーマやプログラムに関わる市民活動団体

■提案に係る現状・検討経過等

1) 区内の既存の取組について意見交換

部会発足当初から継続的に審議をし、土橋小学校での昔遊び、國學院大學奉仕会、子ども文化センターでの各種行事など、既存の世代間交流の現場について意見交換を行ってきた。

- ・様々な分野で実績や経験、知識・技術を持つ区民がたくさんいるので、そうした方々の協力をあおぎながら、地域の子どもに継承していけると良い。
- ・一方的な話を聞くスタイルだと、子どもは飽きる。双方向のやり取りが無いと効果は薄い。
- ・世代間による対話さえできれば、手法・アプローチ方法は様々考えられる。

2) 具体案の検討 H25 9/26 第10回部会 宮前区役所

●案1 みやまえカルタを活用した世代間交流

内容：①カルタの札で取り上げられた地域資源の学習・体験

②カルタ大会

③交流企画 話し合いや懇親の場など

場：カルタで読まれた現場、周辺の公共施設など

担い手：カルタで読まれた地域資源に関わる活動団体や地域団体などを核とする

※ 多様なカルタの札があるので、地域やテーマ別のシリーズ化もできそう。

※ 平成24年度の区民会議フォーラムで区内の市民活動拠点や資源をカルタの札で紹介しながらウォークラリー形式で周り、その後多世代でカルタを楽しむ企画を行った結果、非常に盛り上がり参加者から好評を得た。



●ネイチャーゲームを通じて体験・交流

※詳細の企画検討や取り扱いは、公園の活用をテーマとしていた環境を活かした人づくり部会の審議に委ねるものとする。

■今後の課題・次期以降の区民会議への申し送り事項等

1) 提案における留意点・今後について

- ・実現に向けては、担い手・場・手法・テーマ例などの検討・確保が必要となる。
- ・今後も機会があれば、有志で検討や働きかけを継続したい。また区の事業設計の際にも配慮を願いたい。

提案D：世代間交流の活動の記録、区誕生40周年、市制100周年に向けたアーカイブ

■取組④ アーカイブ事業の実施

- 目的・区内で行われている世代間交流の活動等を記録し、共有することで、世代間交流に対する参加意識の醸成をはかる。
- ・放っておけば散逸・消失等の恐れがある地域資源の記録を世代間で保存・伝承し、多世代で宮前区へのふるさと意識を高めてもらう。
 - ・区誕生40周年（2022年）や市制100周年（2024年）に向けての機運を盛り上げる。

■提案内容

各学校、施設、地域で行われている「世代間交流の記録」と、写真や文章資料などを募集し郷土史の話などを整理する「宮前区のあゆみの記録」を行う。集まった資料をアーカイブとして保存し、区民に閲覧しやすい形で提供するとともに、後世に残し、継承していくしくみをつくる。世代間交流の企画の一環としての実施も考えられる。

■提案に係る現状・検討経過等

1) 提案の基となった意見等

- ・「世代間交流企画」を実施するだけでなく記録をきちんとし、より多くの区民と共有し、後世・次世代にも引き継いでいくことが重要である。
- ・戦争や開発の記録、昔の宮前区の姿の資料や逸話などは時代とともに散逸・消失していく。失われてしまう前に記録、保存していく必要がある。
- ・区誕生40周年や市制100周年に向けてシリーズ化等を行うことで、全体の機運を盛り上げ、より大きな成果を狙えるのではないかと。

2) 記録の対象

- ・「世代間交流企画」の実施記録
- ・学校と地域の連携事例（小学校アンケートで見出した事例等）
- ・地域の古老や住民、郷土史研究家などが所有する昔の宮前区に関する資料や記憶

3) 記録の方法

- ・「世代間交流企画」を通じて、資料やお話を共有し、記録する

4) 記録の保存・伝承

- ・区内学校に活用してもらえるような副読本や冊子としてまとめる
- ・Webなどを通じた公開資料として活用

■今後の課題・次期以降の区民会議への申し送り事項等

- ・2つの周年記念を見据えながら区が主体となった取組を行うことが望ましい。長期的に確実なアーカイブ化が必要であり、市民参加も不可欠なことから、行政が主体となった協働による課題解決へとつなげたい。

(申し送り) 提案 A 世代間交流に取り組む諸団体へのサポートを実施

■申し送り・経過観察⑤ 学校支援センターの機能強化

■目的・「学校支援センター」の機能強化を増強することで、子どもと地域の大人がふれあう機会を創出し、世代間交流へとつなげる。

■検討結果

区こども支援室内に設置され、地域の方にボランティアをお願いして学校現場でのサポートをしてもらう「学校支援センター」が積極的に活用されることで、学校・地域の連携が強化されるとともに、地域の大人と子どもがふれあう機会を今以上につくることができる。

まずは関係者・担当者の取組、改善活動、その成果等について、見守りたい。

■課題に係る現状・検討経過等

1) 区内小学校での地域連携・交流、地域人材活用現況調査（結果）

平成 24 年度に区内の公立全 17 小学校を対象にアンケート調査を実施した。

- ・授業内…伝承遊び・農業・職業・伝統文化等の体験授業、楽器・そろばん・英語・水泳などの専門授業での地域人材活用が半分以上の学校で実施されており、その他福祉教育、郷土史、国際交流など多分野・多岐に渡る取組が行われている。
- ・授業外…バザーやフェスティバル等のイベント、登下校時のパトロールなどの事例が多く、PTA やおやじの会が積極的に活動を展開している事例もあった。その他美化活動、あいさつ運動、学校行事支援などの事例もあった。
- ・広報活動…学校だよりの発行が全校で行われ、保護者配布、町内会回覧等が行われていた。その他 HP の公開や授業や行事の公開が行われていた。
- ・地域との連携・交流の障害や課題…複数選択式で回答いただいたところ、「財源の不足」「時間の不足」と回答した学校が 10 校以上あった。「教職員の負担」、その他「手続きの複雑・面倒さ」「情報の不足」と回答した学校もあった。

2) 学校支援センターの抱える課題

① こども支援室ヒアリング H24.12/12 第 3 回部会 宮前区役所

- ・社会福祉協議会など他ボランティア関係機関との連携が薄い、知名度が低く登録ボランティアが少ない、ボランティアニーズとのミスマッチ、などの課題を確認した。

② 学校支援センターヒアリング H25.7/30、8/20 宮前区役所

- ・現在の登録ボランティアは 40 人程度で、増強が望まれていることを確認した。
- ・現行制度では無償で交通費等も支給できず、定期・長期的な人材の確保が難しい、登録の際の支援可能内容の項目が事前に周知されていない、などの課題を確認した。

■今後の課題・次期以降の区民会議への申し送り事項等

1) 改善・課題解決への意見

- ・特技がないと登録できないという誤解や遠慮を招いている恐れがあり、募集チラシや登録フォームの改善が必要である。

2) 今後について（留意点や意見）

- ・見守り結果に応じて、必要な働きかけ、取組について検討・提案を行っていく。

⑤申し送り・経過観察

⑥ (申し送り) 提案B 既存のイベントでの世代間交流のしかけの企画と実践

■申し送り・経過観察⑥ 「チャレボラ」※ 交流会の開催等

■目的・区民の世代間交流を通じて「区民の心を育てる」意識の醸成、認知・参加意識を高める。

■検討結果

既存の区内の市民活動団体が行うイベントや活動に世代交流に資する企画やイベントを付加することで、世代間交流の機会を創出し、意識を高める。

その一例として「チャレボラ」の修了者・関係者を集めての「チャレボラ交流会」の開催案や、世代間交流の必要性など、部会内での審議経過を関係者に伝えた。

■課題に係る現状・検討経過等

1) 「チャレボラ」について

●「チャレボラ」に関する意見

- ・児童にとって参加した年度だけで活動が終わってしまうのは非常にもったいない。
- ・OB 同士が交流する機会を設定することにより新たな活動や世代間交流の機会の創出につなげることができるのではないか。

●プログラム現場見学 (H25.8/7 グリーンハイツ集会場 H25.8/20 土橋会館)

- ・区内で行われた選択プログラム「子育てサロンのお手伝い」を現場訪問し、参加学生が赤子や母親、年配のボランティア等の多世代と交流・活動するのを確認した。

■今後の課題・次期以降の区民会議への申し送り事項等

1) その他の既存のイベントへの世代間交流企画の提案について

- ・世代間交流イベント例として「夏休みこども遊びランド」「子育てフェスタ」の紹介を関係者から受けた (H25. 4/17 開催の部会)
- ・世代間交流企画について以下のような案が出された。
 - ①高齢者から伝承遊び等を教わる母親達が、その技を身につけ、次世代への伝承者となり、イベントの運営側に自然に関わっていけるような講座や仕掛け。
 - ②世代間交流をテーマとした交流の場の設定、例えばみやまえカルタを活用したコーナーの設置等

2) 企画実践の際の留意点や今後について

- ・既存イベントへの企画の付加や変更は、主催団体の主体性・自主性を尊重する必要がある、区民会議としてできることは、企画の提案や働きかけに留まる。
- ・区民祭など、出店や出展、企画単位で参加が可能なイベントへの企画持込み・運営も検討されたが、調整・準備時間等の不足により、任期中の実現には至らなかった。今後も機会があれば、有志で検討や働きかけを継続したい。

※ チャレボラ

市社会福祉協議会とかわさき市民活動センターが開催する小学生～大学生のためのボランティア・福祉体験学習。

⑥申し送り・経過観察

■申し送り・経過観察⑦ ボランティアコーディネーター※の育成

■目的・市民活動の連携や人材の交流や相互活用をコーディネートすることで全体を発展・活性化させることができる人材を育成し、区内で活躍してもらおう。

■検討結果

地域で市民活動やボランティアをコーディネートできる人材を育成する必要性は共通で認識された。しかし、活用のフィールド確保の課題や潜在ニーズの確認の必要性などから具体的な取組の提案には至らなかった。

■課題に係る現状・検討経過等

1) これまでの取組に関する意見・分析等

- ・シルバー人材センターのような有償ボランティアにおいて、活動ニーズや取扱う内容が多岐にわたって増えている傾向がある。
- ・学校支援センターでは、人材登録の少なさや、支援ニーズの整理不足などから、地域のニーズと地域の人材のマッチングを行う段階にまで至っていない現状がある。
- ・市民館では地域活動に資する人材育成に関する様々な講座が行われており、その中にはコーディネーター的視点に基づくものもあるが、講座の受講後に、地域現場での活動することにうまく接続されていない部分がありそうだ。
- ・自分たちの活動内容に一定の満足をされており、それ以外に興味・関心が薄い団体や個人も多い。全体の発展には、それらの人たちの視野を拡げるきっかけが必要である。
- ・連携のアイデアがあっても資金の獲得や協力者の募集など、プロデュースのノウハウや視点、人材が無くて実現できないケースもありそうだ。
- ・まず既存の活動団体同士が互いに知り合うきっかけづくりが重要である。

■今後の課題・次期以降の区民会議への申し送り事項等

1) 今後について

- ・市民館等で開催している既存の人材育成関連の講座の経過を見守りながら、必要に応じて具体的な人材の育成・活躍の場を確保していく方法について検討。

※ ボランティアコーディネーター

ボランティア活動のつなぎ手として、

- ①ボランティア活動の支援
- ②ボランティア活動の希望者と活動ニーズの調整
- ③既存の活動団体同士の連携や人材の交流の仲介などを行い、区内の市民活動の全体を俯瞰し適切な連携へと導く。



ミヤマエキョウダイ

宮前兄妹